

資料室だより 111

+Buxtehude: Membra Jesu nostri (修復済み)

この楽譜は皆さんが声楽のレッスンでよくお使いになります。辻壮一先生の遺品の寄贈を受けるまではこの曲の楽譜はありませんでした。それで、この1冊は大変よく利用されていたのですが、もともとが古いので(ベーレンライター、1963年)、あつという間にページがばらけ、ズタズタになったキリストの四肢を思わせました。コピーを盛んにされるからです。それで新しく Carus 版を購入しましたので皆さんこちらを今はお使いかと思います。しかし無残に崩壊した辻文庫をこのままにするには忍びないので、専門家に外注して修復してもらいました。実用ではなく保存目的での修理なので激しいコピーには耐えません。しかしこちらの古めかしい楽譜のほうがいいと感じられる方もおられるので今まで通り同じところにおいておきます。どうぞ楽譜は大事に取り扱ってください。

+Carmina Carissima (Musica Antiqua Bohemica, 11/11)

スペースの関係で涙を吞んでこのシリーズを解体し、グレゴリオの収書方針に合うものだけを残しました。おそらく存在すら知られないまま2階に眠っていたボヘミアの古楽の叢書です。今は階下に移していますので少しご紹介します。この巻は、「最も愛らしい歌集」とでも訳すべきもので16世紀のボヘミアのアカペラ曲集です。ボヘミアといえばスメタナのモルダウなどを思い出されると思います。あのような独特の叙情をもつ文化にはやはり美しい宗教合唱曲の歴史が背景にあります。また待降節に皆さんもよく歌われる *Rorate caeli* はチェコ起源の聖歌です。

この楽譜にあるような曲を普段使われる機会はないかと思いますが、歌えなくても少し楽器で弾いてみて和声の美しさを試してみるのも勉強になるのではないのでしょうか？ チェコ語ですが、ドイツ語も(たまにラテン語も)付記されています。興味深いのは *De Sancto Gregorio* という曲があります。グレゴリウス1世教皇の祝日のためと思われます。

+O Ildephonse

イルデフォンスという聖人をご存知でしょうか？ 7世紀にトレドの大司教として活躍しましたのでモサラベ典礼に大きく貢献しています。またスペインにおけるマリア崇敬の基礎となる、マリアの処女性を擁護する論文を書きましたので、マリア様から天使が縫ったというマントを授かったという伝説がスペインにはありまして、グレコをはじめ絵画の題材にもなっています。しかしヨーロッパ全体で有名というわけではなくスペインでのみとりわけ崇敬されています。ですから *O Ildephonse* というタイトルのモテットを作曲するのもスペイン人のみです。当館には *Victoria* と *Esquivel* という16世紀の2人のスペイン人のモテットを所蔵しています。

杉本ゆり記